

ちゅうたろう
矢島 忠太郎さん
(菫川町)

キラリ★ 話題の「ひと」



○プロフィール
昭和11年生まれ。
晃陽会会員（役員、会計担当）
関東菊花競技大会に出品し、活躍中

菊作り25年 より見事な菊花を目指して

晃 陽会は、菊の花の展示や優秀作品の選定を行う団体です。矢島さんはその会で会計を担当して、菊作りは25年余りに及びます。

きっかけは、奥さんが菊作りを始めたことでした。二人で先輩の指導を受けましたが、名花作りを競争する世界です。仲間は同時にライバルで、栽培技術も秘伝で簡単に教えてもらえません。それこそ秋、落ち葉を集めての腐葉土や肥料作り、春先の挿し芽や、育った苗の大きな鉢への植え替え、少し乾かし気味にして頃合いを見ての水やり、そのタイミングなどなど。さまざまな技術を夫婦二人で切磋琢磨しながら磨いてきました。

菊の花の展示会（関東菊花競技大会）は毎秋、11月、佐野厄よけ大師（惣宗寺）境内で行われ、総理大臣賞を筆頭に優れた作品が並びます。三本立ち、七本立ちなどの背丈の高いもの、盆栽作りや、懸崖（けんがい、大きく垂れ下がる作品）などがあります。令和4年の夏は天候不順で、矢島さんは得意な懸崖の作品がうまく育たず、三本立ち

の作品で厚生労働大臣賞を受賞しました。ここにも温暖化や猛暑など気候の影響がありそうです。また、奥さんの作品も出展されました。矢島さんも奥さんもこの時期少し体調を崩されたそうです。春先には苗作りや土作りが始まり、さらに良い菊花作りを目指します。また晃陽会は昭和3年創設じき100年を迎え会員募集中です。この機会に菊作りを始めるのはいかがでしょうか。

（市民記者 福田満）



▲関東菊花競技大会の様子

市長からの

メッセージ

今月はスポーツを生かした今後の取り組みについて少しお話ししたいと思います。昨年は、いちご一会とちぎ国体、そしていちご一会とちぎ大会が「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのもと、全国から多くの皆さまをお迎えし、盛大に開催されました。両大会のレガシーを継承するため、佐野市スポーツ推進基金条例を策定し、現在開会中の議会に上程しました。議決された後は、両大会から得られた貴重な経験を生かし、より一層魅力あるまちづくりを進めてまいります。

その他、現在検討を進めているのがスポーツ医学センターです。本市は健康寿命が県内でも下位に位置し、市民の健康寿命を延伸したいと考えています。栃木県にもスポーツ医学センターがあり、「とちぎからトップアスリートを」掲げた取り組みをしています。アスリート育成部分は県と連携させていただき、市民の皆さまに、より身近なスポーツ医・科学の知見を活用した地域住民の健康増進を中心とした取り組みを進めていきたいと考えています。国のスポーツ庁でもそういった自治体を支援する動きもありますので、国・県としっかり連携し、本市独自のスポーツ医学センターにしていきたいと思えます。

3月は年度の締めくくりであり、卒業式のシーズンです。別れる悲しみもありますが、新たな出会いも待っています。卒業される皆さまの新たな門出に際し、更なる成長と活躍を期待いたします。新型コロナウイルス感染症の対策については、転換期を迎えており、5月8日に感染症法上の位置づけ変更となる予定です。新たな対応方針が決まり次第、周知してまいりますので、今後も注視していただきますようお願いいたします。

金子 裕





介護の悩みに寄り添う ～どこでもドア～

介護の相談をしたいと思う人の中に「恥ずかしい、気が重い、周囲の人へ話せない」などの気持ちを持つ方は多くいるはず。そのような気持ちを払拭し「気軽に、わかりやすく、リラックス」して介護の相談に応じるのが「佐野市在宅介護家族の会」です。

介護経験のあるボランティアのメンバーが悩みに寄り添い、介護の理解を深め合います。そのためには、寄り添う場所への第一歩を踏み出すことが大切です。同会がその扉を開くお手伝いをします。

同会は来年度から月1回、市役所3階テラスで、介護についての情報交換会を開催する予定です。寄り添う場所への扉を開けて第一歩を踏み出しましょう！開催日などの詳細は、市社会福祉協議会内の同会事務局 ☎(22)8136へお問い合わせください。



(市民記者 飯田瞬) ▲活動の様子(アレンジフラワー)

天明鋳物発見！体験！フェアが開催されました

どまんなかたぬまにて、2月10日(金)～12日(日)の3日間、天明鋳物発見！体験！フェアが開催されました。同フェアでは、市内に工房を構える天明鋳物師による展示が行われたほか、天明鋳物のお皿やプレートをつくるワークショップなどが行われました。

11日(土・祝)・12日(日)には、佐野市ゆかりの講談師である天明留理子(旭堂南明)さんによる講談「鉢の木」が上演されました。天明鋳物師を自身のルーツに持つ天明さんは、天明や葛生など佐野の地名を織り交ぜながら、小気味良いテンポとユーモアあふれる口調で参加者を楽しませていました。



▲天明鋳物発見！体験！フェアの様子

佐野弁
ばんざい

「ヤンシヨ」は人を誘うときにいう
ていねいなことば — 敬語その4 —

音楽会や卓球などに誘ったり誘われたりすることはよくあることです。人を誘うときには「来週、音楽会があるつてから聞きに行グベー(行こう)」といったたり「久しぶりに卓球でもヤンベー(しよう)」などといったりします。すすめたり誘ったりする語が「ベー」です。

行グベーとか飲ンベーということばには、人を敬う意味がないので、年上の人などに軽々しく使うのは失礼になります。そこで年上の人には「そこまで一緒にヤンシヨ(行きましょう)」のようにいいます。「ヤンシヨ」には、人を誘う意味と人を敬う意味があるので、年上の人にも同年代の人にも使うことができます。

まず「ヤンシヨ」のある例文を見てみましょう。

「近くに子どもの遊び場がきたんだってガネ。どんなもんか行つて、見てミヤンシヨ」

ヤンシヨは「行き+ヤンシヨ」のように動詞の連用形のあとに添えていいます。

ヤンシヨと同じように人を誘うときには「ヤンスベー」ともいいます。ていねいな意のヤンスに、人を誘うベーが付いたものです。

「説明会は午後1時に始まるつてから、ちよつと早めに行ギヤンスベー(行きましょう)」

「ヤンシヨ」や「ヤンスベー」は、昭和のころでも年老いた人たちの使う方言でした。今では、その老人たちも少なくなり、ほとんど聞くことができなくなりました。死語になってしまったと言ってもいいでしょう。

(市民記者 森下喜一)

森下先生による「佐野弁ばんざい」のコーナーは、今回が最終回となります。森下先生、長年にわたり、さまざまな佐野市の方言をご紹介いただき、本当にありがとうございました！

